

# 「教育課程論」通信

vol.05

## 2コマの流れと記録

テーマは「連携を考える」でした。まずは、各グループに割り振られた連携に関する3種類の論文のうち1本を個人がそれぞれ読みました。連携に関する取り組みをみていき、個人でみたことをグループ内で共有して1つのPPTに取り組みとその特徴に関してまとめていきました。その後、グループを変更して、その他の種の連携の考え方を知り、連携の共通点や相違点について理解を深めました。取り組みを論文から学ぶというスタイルで3種の連携（「校種間連携」「地域連携」「学校間連携」）を捉えました。最初は少し難しかったかもしれませんが、グループ内で理解や疑問を共有していくなかでどのグループもひとつのスライドに取り組みの分析をまとめることができました。また、その分析結果を知らない人に対して工夫をしながら説明することができました。さらに、連携の事例について、広島大学広域交流型オンライン社会科地域学習の動画をみたりして、イメージを少し膨らませていきました。次回、連携に挑戦してみる。



## 連携三種の取り組みをみる

各グループがPPTにまとめたなかからその特徴を抜粋しました



### 論文1：学校ごっこ！

### 論文2：外国につながる生徒を地域のなかで受け入れる！

### 論文3：島の学校をつなぐ！

何と何をっていないでいる？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園と小学校</li> <li>・「時間的・空間的に自由な幼児」と「独自の学校文化のある小学校」それぞれの生活における、<b>子どもたちの感覚の違い</b></li> <li>・<b>子どもの視点</b>（幼稚園に通う現在の自分と、想像上の「小学生としての自分」）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域</li> <li>・行政と大学</li> <li>・外国人児童生徒と教師、子どもなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僻地の学校同士</li> <li>・小学校同士（「場」と「場」、「リアル」と「バーチャル」）など</li> </ul>
どのような取り組み？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が「小学校教師」、子どもたちが「児童」を演じるごっこ遊び</li> <li>・<b>自由遊びと学習活動の間のような活動</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人生徒受け入れのために<b>学校・地域・大学・行政などが連携して課題を共有、それぞれの特徴を生かし解決</b>へ向かわせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した小学校同士の遠隔合同授業（授業や発表など）</li> <li>・他県との学校との連携授業（<b>気候や風土特性を活かして</b>）</li> </ul>
取組で見えた姿は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち：自分なりに思考したり発言したりする姿、失敗できないプレッシャーから泣く姿</li> <li>・保育者：子供を指導するという違和感や抵抗感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>外部協力者とのつながり、地域の人の協力</b>により、クラスに居場所をみつけることができた子どもの姿など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同授業スタイルの確立や教員の<b>リソースの共有</b>（指導案や教育課程など）</li> <li>・多様な考えに触れ、自分の意見と比較し理解を深めていく子どもの姿</li> </ul>
取組の意味は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校ごっこ」という遊びを楽しむ、<b>そのプロセスに意味を見出すこと</b>・レディネスの形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境を整えながら改善する」意義</li> <li>・協働的支援の意義など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リソースを共有し、教材や授業実践の開発を共同で行える</li> <li>・多様な意見や発想に触れることによる子どもの学びの深化</li> </ul>

岡花折一郎ほか（2016）「遊びを中心としたアプローチカリキュラムの可能性—保育園における「学校ごっこ」実践の検討を通して—」  
 南浦涼介（2015）「即興の結び目が支援の場を創発するとき—分散地域に暮らす外国につながる子どもたちへの協働的実践の事例研究—」  
 前田賢次（2021）「へき地複式校間のICT活用による双方向遠隔合同授業の成果と課題—徳之島町の5つの学校の取り組み事例から—」

## 南浦先生の今日のひとこと

馬越さんのいわれるように、みんなのふりかえりにある連携のアイデアはすごく卓越していたのでぜひぜひ見てみてください！

また、今日はある意味で「C小学校」（山間部・少人数）の事例も多かったですね。「A」「B」が多いイメージでしたが、Cだからこそのおもしろさというの、味わえたのではないかと思います！

## 編集後記

今回紹介できなかったふりかえりシートには、みんなの「連携」のアイデアが豊富に詰まっていたので、見る価値大いにあります^^  
 毎回いろんなレンズを手に入れて、カリキュラムを捉え続けてきましたが、教育課程論も折り返しを迎えました。ここからどういう結末になっていくか、楽しみです。そして意外と「連携」は身近なのかも!?

【制作・編集 馬越夕椰(教育課程論TA)】